

# 大橋 和生

Ohashi Kazuki



## 真庭から世界へ

カスタムやチューニングを通じて車を総合的にプロデュースする『MADLANE(マッドレーン)』。2017年の本格始動以来、その活動は国内外で高く評価され、いまや世界へと舞台を広げています。代表の大橋和生さんは子どもの頃から車が好きだったと言います。大学はデザインを学ぶため東京へ進学し、卒業後は東京か海外での活動を考えていましたが、大都市での暮らしと車が結びつかないと感じたことや、海外に行く前にすべきことがあると思ったことから帰郷。その時初めて、地元が自分のやりたいことに適した場所だと気づき、「ここでマッドレーンをやろう。真庭に人を来させてやる」と決意したそうです。

# 真

MANIWA BITO

# 庭人

その後、手掛けた1台がSNSで評判を呼び、欧州最大級のカーショー『Ultrace(ウルトレース)』に招待され、2位を獲得。しかし、次なる挑戦の前にコロナ禍が到来。大橋さんはこれを機に、活動を見直します。「今のやり方では自己満足で終わる。拠点を整備し、次世代へつなごう」と再スタート。そして今年、渾身の1台で再挑戦したウルトレースで見事1位に。現在はすでに次のプロジェクトを始めており、完成後は次世代へつなぐ活動に力を注ぐ考えです。

## 新たな文化を作りたい

大橋さんが起点となり昨年初開催した「真庭速祭」。木山街道をレーシングカーなどが駆け抜け、

## 作業する大橋さん



## 大橋 和生さん(一色)

真庭市出身。大橋商事有限会社代表取締役。幼少期、幼馴染がきっかけで車が好きになり、ラジコンカーのカスタムに熱中する。大学卒業後Uターンし、実家が経営する会社の事業としてMADLANEの活動を本格的に開始した。休日の朝は自分の好きな道をドライブするのがルーティン。

国内外からファンが訪れました。「真庭速祭のために人が来る。こんなに地域を活性化できるイベントは他にない」との思いで始めたと話す大橋さん。開催後は地元からも次回を楽しみにする声がたくさんあったとのこと。「一度きりではなく、お祭りのような文化を作りたい。続けていくために、これらが勝負です」。真庭から世界へ、そして未来へ。大橋さんの挑戦は続きます。

